

下関ブロック活動報告書

日 時：令和元年 9月 7日 13:30～15:30

会 場：しものせき環境みらい館 第1研修室

テ ー マ：「ひきこもりの長期化と 8050 問題」

～正しい知識とその対策～

参 加 者：109名（内、社会福祉士正会員 27名）

報 告 者：下関ブロック長 佐藤義浩

報告作成日：令和元年9月9日



ひきこもりについて、マスメディア等で話題になっているが、一部の事例、大きな事件が報告されており、ひきこもり=大変な方、迷惑な方等の認識になっている現状があり、ひきこもり支援の第一人者でもある、山口大学医学系研究科教授山根俊恵先生に「ひきこもりの長期化と 8050 問題～正しい知識とその対策～」をテーマにてお願いしました。 高い関心の為、定員を超える申込みもあり、当日参加者は 109 名の参加がありました。

ひきこもりは内閣府調査で 115 万人（15～39 歳；54 万人 40～64 際；61 万人）いるとのことだが、実際は 200 万人以上いるのではないかとされている。また、20 年後は 1000 万人になるかもしれない。現状 40 歳以上の方のひきこもりの方が多くなっており、その親も 70 歳・80 歳になっている。ひきこもり者のひきこもりは 7：3 で男性の方が多く、平均のひきこもり期間；10 年、平均年齢は 35 歳となっており、その親の平均年齢も 70～80 歳となっている。

ひきこもり地域支援センターは 2018 年 4 月に全ての都道府県・指定都市（67 自治体）に設置に至ったと報告されたが、ひきこもりサポーター事業実施自治体は 3 箇所（愛知県豊明市・山口県宇部市・徳島県三好市）しかない、これでは機能するとはいえないといわれたことが印象的で以前から課題であったひきこもりが、現状でもまだまだなんだと感じました。

発達障害は 10 人に一人はいる状況で、診断は難しい。特性を把握していくしかない。それぞれ（統合失調症・精神遅滞・適応障害等）の特性を理解して支援していくしかない。解決できないひきこもりはないとのこと。具体的には苦しみや生きずらさを理解する。その部分に働きかけていき、当事者ができることを増やしていくことが大切。当事者の主体性と自発性を回復されることが大切。先回りの支援はあまりよくない（良かれと思って行っていることが「ひきこもり」を強化してしまう可能性ある）。一般論で説得をしようとするから、当事者は腹が立ってしまうので、個人を尊重した「対話」による支援が重要。先生いわく、「しっかり関わり、対話をしていくことで、解決できないひきこもりはない」と締めくくられました。

講演時間が押して、質問時間が取れなかったが、参加者からのアンケートでは「社会福祉士としてどのように対応をしていくのか聞きたかった」「下関市での現状はどうなのか知りたかった」等の声がありました。